アレルギー児を支える全国ネット
アラジーポット

平成 19 年 6 月 27 日

厚生労働大臣
柳澤　伯夫殿

標榜科についてのお願い

貴厚生労働省におかれましては、日頃私たちの健康、特にアレルギーに関しましては多くの喘息関連の研究会を立ち上げていただき、「アレルギー検討会」「喘息死ゼロ委員会」などの委員会からの報告書を出して地方自治体などへの理解・周知をお計らいいただき、また、患者さんの相談窓口の充実や自己管理に向けて、研究班などを通じてご尽力いただいておりますことを心から感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

何よりも、厚生科学研究により「EBM に基づく診療ガイドライン」の作成によって EBM に基づくという概念を導入してくださったことにより、今まで、先生方個人個人の経験則によってなされていた治療（も、とても大切ですが）に道を開いていただきました。このことにより、私たち全国の津々浦々で診療を受ける多くのアレルギー患者にとりましては大きな進展の礎を作ってくださったことと心より深く感謝しております。厚生労働省が開いてくださった道をより充実して、厚生労働省、日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会と共に、患者にも医療者にも普及をはかっていくことが、私たちのこれからの使命と考え、活動してまいります。

私たちのように、ある程度長期にその疾患と向き合い、全身にわたる症状への治療を継続していく必要のある疾患では、アレルギー科標榜以前までは、小児科、耳鼻科、皮膚科、眼科と多くの科を回る治療を続けておりました。アレルギー科の標榜により多くの医療者がアレルギーに関心を持ちご研鑽頂いた結果、アレルギー科において全身にわたる症状を診ていただくことができるようになり、大変感謝しておりました。

アレルギーは、他の方ではなんでもない食べ物、医薬品でさえ、アナフィラキシーショックにより命を落とす危険のある疾患です。よく使われる造影剤で100人の方が命をおとしていると伺ったこともあります。また、歯科での麻酔による事故も後を絶ちません。緊急時に一時的にせよ命を救うことにできるエピペンも、ご尽力により食物アレルギーの子が持つことができるようになりましたが、まだ限られた医師しかその存在さえ知りません。

厚生労働省におかれましては、是非、アレルギー科という大きな標榜により、疾患のある患者さんやその家族が、一日に何件もの診療科を回わらないでもすむ現状の表示を残していただきたいと願っております。
日本アレルギー学会には、私たち患者が標榜によって選んだアレルギーの専門医の皆さまに、その実を伴った診療をして頂けますよう、今後、より一層のご尽力をお願いして、お約束を頂きました。

国の施策により、医療者の動態も変わります。今まで、全身を診ていただけるはずのアレルギーの専門医が、それぞれの疾患毎の専門医へと得意分野を限定して研鑽することになると、アレルギー科標榜前のように、アレルギーという特殊性の下、全身に次々に現れる発症部位毎に、耳鼻科のアレルギー科、皮膚科のアレルギー科を捜し、医療機関を一日に何軒も巡り歩く時代に戻ってしまいます。この施策が一つアレルギー科における問題ではないことは理解しているつもりです。が、まずは自らの疾患であるアレルギーについての現状のご理解と、今後の必要な取り組みのご理解を賜りたく、お願いの文を届けさせていただきました。

何卒、日本の人口の三分の一が悩んでおりますアレルギー疾患の患者さん達が、疾患部位毎ではなく、アレルギーがありつつ日常生活を営むひとりの人として、総合的に診療して頂けるようなアレルギー科について再度ご考慮賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」
担当専務理事　栗山真理子
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 2-17-6 ｻﾞ・ﾌﾛﾝﾄ
Tel&fax：03-5701-4607
Mail：info@allergypot.net
URL:www.allergypot.net